



### 道でつながるサミット参加7市町の観光と特産品

**秋田県 由利本荘市**

**観光**

- 「国指定史跡」鳥海山
- 鳥海高原(森ノ木台温泉、花立牧場公園、南由利原、日本の滝百選「法体の滝」、狼倉温泉、矢島スキー場)
- 海水浴場(本荘マリーナ・通川・西目)
- 子吉川 ●天鷲村 ●赤田の大仏
- 由利本荘ひな街道 ●鳥海山ろく線
- 鳥海山・飛鳥ジオパーク(申請中)
- 真田家ゆかりの地

**特産品**

- 秋田由利牛 ●こてまり
- ジャージー乳製品
- 本庄ハムフライ
- 市内各地のうどん・そば
- 清酒(4つの酒蔵) ●天鷲ワイン

**道の駅**

- 岩城 ●おおうち ●にしめ
- 東由利 ●清水の里・鳥海郷

ここが  
東北どまん中  
雄勝峠  
おひらとつげ  
国道13号

**秋田県 湯沢市**

**観光**

- 日本ジオパークの認定を受けた、小安峡大噴湯、川原毛地獄、小野小町伝説の郷をはじめとする豊かな自然と歴史に育まれた市内16ヶ所のジオサイト

**特産品**

- 清酒 ●さくらんぼ ●稲庭うどん
- 川連漆器

**道の駅**

- 道の駅おがち 小町の郷

小野小町の市女笠(いちめがさ)をモチーフにデザインされた小町を愛する当地のシンボル。道の駅のすぐ隣には、農産物直売所を併設した「小町の郷 観光交流拠点施設」が多くの観光客で賑わいをみせています。

**山形県 真室川町**

**観光**

- 真室川梅公園 ●森林トロッコ列車
- 龍峠(大カツラ) ●滝の沢の一本杉
- 白鳥飛来地「野々村のため池」
- 歴史民俗資料館

**特産品**

- 原木なめこ ●たららの芽
- ねぎ ●にら ●こたわり米
- 伝承野菜 ●真室川ラーメン
- 真室川音頭ゆべし・最中
- 森の停車場 ●産直まごころ工房

**産直所**

- 産直あさひ ●産直まごころ工房

**山形県 金山町**

**観光**

- 大堰と鯉 ●大堰公園 ●めがね堰
- きこころ橋 ●「サハラ」バード記念碑
- 谷口銀山跡 ●交流サロンぼすと
- マルコの蔵 ●グリーンパレ・神室
- ホットハウスカムロ ●杉の美林
- 蔵史館 ●岩円地蔵 ●福山城跡

**特産品**

- 山菜 ●キノコ ●杉加工品 ●ニラ
- イワナ ●ヤマメ ●煙の甘煮「あまこい」
- 清酒「金山田楽」●神室山菜 ●「稲露」
- なたねっこ ●いしが餅 ●くるみまんじゅう ●地豆納豆 ●ラーメン ●そば
- くじら餅 ●メールサブ ●ごぼうたたき ●漆野いんげん ●吉田かぶ

**産直所**

- 産直「ちようぼうや」 ●産直金山

**山形県 新庄市**

**観光**

- 新庄ふるさと歴史センター
- エコロジーガーデン〜原産の杜〜
- 最上公園(新庄城址)
- 東山公園(あじさいの杜)
- 八向橋と芭蕉乗船の地
- 芭蕉の句碑と柳の清水跡
- 新庄藩主戸沢家墓所
- 旧矢作家住宅 ●鳥越八幡神社

**特産品**

- 新庄東山焼 ●新庄亀織
- くじらもち ●あじさいせんべい
- 新庄漬 ●納豆
- 玄米みそ ●かむてまんじゅう
- とりもつラーメン ●手打ちそば

**産直所**

- 産直まゆの郷 ●産直いなぶね

**山形県 最上町**

**観光**

- 日本一のオオアカマツ・オオカツラ
- 瀬見温泉 ●赤倉温泉 ●大堰温泉
- 封人の家 ●山刀伐峠 ●前森高原
- 界田分水嶺

**特産品**

- アスパラガス ●山菜・きのこ ●鮎
- 新森高原手作りハム・ソーセージ
- アイスクリーム ●地酒「このきみ」
- ヤーコン煎餅「さいの声」●瀬見しそ巻 ●雪ん子たれ ●最上赤にんにく

**川の駅**

- ヤナ茶屋がみ

**産直所**

- 産直四季の香 ●産直もがみ屋

**宮城県 大崎市**

**観光**

- (歴史・名所)
- 国指定史跡名勝「旧有備館および庭園」
- 強靱性湖「湯沼」●感覚ミュージアム
- 名勝「鳴子峡」●ラムサール条約登録地「藤栗沼・周辺水田」●「化女沼」

(伝統工芸)

- 鳴子こけし ●鳴子漆器
- しの竹細工

**特産品**

- ふゆみずたんぼ米 ●ゆきむすび
- シナイモツコ郷の米 ●ささ結

**道の駅**

- 道の駅三本木やまなみ
- あら・伊達な道の駅

峠でつながる峠サミットが平成25年度をもって18年間というその長い歴史に幕を閉じました。本町を含む近隣6市町が連携し、道路整備の促進をはじめ、人的・物的交流の促進を目指して手を携えたことが「峠サミット」のはじまりです。この期間には、「主寝坂道路」が開通するなど、東北中央自動車道の一部が供用を開始し、この地域を結ぶ峠道は高速交通網に組み込まれるまでになりました。

その後、東日本大震災をはじめとする近年の大災害の多発を背景に、縦軸横軸の道路ネットワークが災害時に重要であることが再認識され、これまで整備されてきた道路の恩恵はもちろん未整備区間の全線供用の必要性に深く気付かされました。また、道路の整備がいろいろな地域との「人・もの・こころ」の交流を生み、地域を豊かにすることも忘れてはなりません。

今後も継続して、道路網を活用し3県にまたがる市町が連携することが、さらなる道路整備を促進させると考え、「由利本荘市」、「湯沢市」、「真室川町」、「金山町」、「新庄市」、「最上町」、「大崎市」の7市町で、日本海から太平洋までをつなぐことができる十字連携による取組みをスタートさせる運びとなりました。

平成28年7月3日、東北のどまんなかで、活力ある地域の創造に向けて新たな一歩を踏み出しました。

## いま、東北のどまんなかで、できること

**道でつなぐ・東北どまんなかサミット 2016**  
 ~日本海と太平洋をつなぐ~ in かねやま

7月3日 開催

◆**湯沢市**  
 湯沢市長「昔は国と国の境目が峠だった。だが今は境目なく道路でつながっている。峠サミットを通して関係市町の連携は強くなったと感じる」

◆**真室川町**  
 井上町長「峠サミットに合わせ10年以上前から高規格道路の整備が進んできた。この流れを止めてはいけない。本サミットでも継続して国へ要望していく必要がある」

◆**由利本荘市**  
 小野副市長「市内の道の駅を利用する方にとどこからどういったルートで来たのかを聞き取り調査した。すると本当に様々なところから多様なルートで来ていた。それは峠サミットを契機に、あらゆる道路整備が進んだからに他ならない。」

◆**金山町**  
 鈴木町長「イベントを通じて交流を深めていくにも道路が必要だし、道路を作るためにもこのイベントが必要だ。道路整備と共に地域の魅力づくりも重要。住民の力を借り、整備促進に取り組む」

◆**最上町**  
 笠原副町長「国道47号が震災時に活躍した。横軸の重要性が再認識されたと感じている。県境部分を中心に更なる整備を訴えていきたい」

◆**新庄市**  
 伊藤副市長「当市は本サミットからの参加。数年の間に市内工業団地への企業進出が増えた。高速道路が縦横軸で繋がってきた効果と考える」

◆**大崎市**  
 小田原副市長「国道108号花洲山バイパスが昨年11月に開通した。本サミットには、宮城県唯一の参加であり、その役割は大きいものと感じている」

◆**新庄市**  
 伊藤副市長「当市は本サミットからの参加。数年の間に市内工業団地への企業進出が増えた。高速道路が縦横軸で繋がってきた効果と考える」

◆**湯沢市**  
 湯沢市長「昔は国と国の境目が峠だった。だが今は境目なく道路でつながっている。峠サミットを通して関係市町の連携は強くなったと感じる」

◆**真室川町**  
 井上町長「峠サミットに合わせ10年以上前から高規格道路の整備が進んできた。この流れを止めてはいけない。本サミットでも継続して国へ要望していく必要がある」

◆**由利本荘市**  
 小野副市長「市内の道の駅を利用する方にとどこからどういったルートで来たのかを聞き取り調査した。すると本当に様々なところから多様なルートで来ていた。それは峠サミットを契機に、あらゆる道路整備が進んだからに他ならない。」



国土交通省東北地方整備局 局長 川瀧 弘之 氏

東北には全て繋がっている高速道路が東北自動車道しかなかった。しかし、数年のうちに計4本できることになる。金山も東北中央自動車道で繋がる。これは大きな変化だ。

もともと東北は食糧面や観光資源の面でポテンシャルが高い。面積が広く中央から遠いという点がデメリットになっていた。それが南北の縦軸、さらには東西の横軸と道路網が整備されることによってデメリットどころかプラス要素に変わるのではないかと。観光客の増加や地場産業の発展等、今後の東北に大いに期待したい。

初の開催「三削る会」

「金山杉材の質感も楽しみながら、伝統技術の継承を胸に、誇りを持って競技に臨んでほしい」  
東北どまんかサミット開催の日、町体育センターを会場に、「金山住宅推進三削る会」が開催され、大会実行委員長である渡部俊治さん（七日町）は開会式で力強く挨拶しました。



実演する実行委員長の渡部俊治さん

「削る会」とは、極限まで薄く鉤くずを出すことを中心に、手道具や伝統技術の可能性を追求する会です。今回の「三削る会」は、金山住宅建築を牽引する大工職人の「技術向上と伝承」、「新たな賑わい・元気の創出」、「街並み景観づくり100年運動」の強化を目的として開催されました。日本を代表する宮大工職人である小川三夫氏のご厚意もあり、全国各地から約100名が参加。大工職人をはじめ、林業関係者や鍛冶職人などが、競い合い楽しみながら技術と情報を交換。交流が深まりました。

主催した新庄最上建設総合組合山支部が準備した削り台、削り材は、ともに金山産の杉製。木材の薄削り大会では檜材を使用するのが一般的で、比較的柔らかい材質の杉は薄削りには不向きです。PRのために、あえて薄削りに向かない金山杉を使用するあたり、金山の職人の「粋」を感じます。

そんな厳しい条件の中で、0.011μmを記録した茂木雄一さん（直室川町）が優勝を果たしました。工務店を営んでいる茂木さんは「初めての出場だったが、日頃培った技術を発揮できてよかった。現在、新庄最上建設総合組合青年部長をしており、多くの先輩方の前で優勝は、素直に嬉しい」と安堵の表情で話していました。



優勝した茂木雄一さん

鉤くずは本来、副産物であり捨てられてしまうものです。しかし、中にはそれを「削り華」と呼ぶ人がいるほど夢やロマンがあり、なにより職人たちの技術が詰まっています。大会中、会場には多くの高校生ボランティアの姿がありました。今大会の開催は、次世代の「削りスト」を誕生させるよいきっかけとなったでしょう。

講演「木のいのち木のこころ」

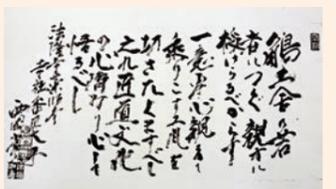
現代の名工  
鶴工舎 創設者  
小川 三夫 棟梁



高校の修学旅行で京都の法隆寺を見て、この道に進もうと決めた。1300年前に建てられたものが今も立派に残っている。これはデータ云々ではなく、作ろうと思う信念で建っているのだと感銘を受けた。

卒業後に法隆寺宮大工の西岡棟梁の門を叩くが断られた。長野県などで修行を重ね22歳で晴れて西岡棟梁の内弟子になった。修行は厳しかったが、親方の中に入り込む楽しさが勝っていた。

今では独立し、弟子をとる立場だ。弟子に自分が積み上げてきた知識を伝えることはできるが、どうしたらうまくいくという知恵を伝えることは難しい。大工は真面目でひたむきな生き方をしていないと、人の心を打つようなものは作れない。時間をかけて執念のものづくりのできる職人を育てる必要がある。西岡棟梁の訓示にあるように、若者には常に親方を追いつくのだという気概を持って、修行に取り組んでほしい。



鶴工舎に残される西岡棟梁直筆の訓示(写)



上：開会式冒頭で披露された稲沢番楽

左：新庄最上建設総合組合山支部によるどんづき

下：会場外広場で併催された青空市

